群　馬　県　立　渋　川　青　翠　高　等　学　校　学　校　評　価　一　覧　表　①　（令和４年度版）

（様式１）

羅針盤			方　策	第１回　点検・評価			第２回　点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改　善　策	自己評価	外部アンケート等	改　善　策
Ⅰ特色ある学校づくりに努めていますか。	１　特色ある教育活動（授業等）を行っていますか。	①　総合学科高校として特色あるキャリア教育活動に満足している生徒が80%以上である。	・１年次においての系列や科目のガイダンスを充実させることにより、生徒や保護者の理解を図り、興味関心や進路希望との齟齬をきたさないよう二者面談や三者面談等でしっかり確認する。 ・２年次では、１年次に選択した系列ごとの学習の充実を図るとともに、７月に就職希望者が行うインターンシップの事前・事後指導をしっかり取り組ませ、自分の進路を考える材料となるようにさせる。 ・３年次では、できるだけ早くから二者面談等を行い、進路目標達成に向けての具体的な取り組みができるような準備をさせる。	A	A	・４系列の履修内容を各系列のコースごとに検討するとともに、シミュレーションシートの評価・改善を行うことで、それぞれの系列の特色を充実させ、魅力化を図る。それを、主体的・対話的で深い学びにつなげるようにする。 ・生徒それぞれの職業観を育成するために、インターンシップや外部講師による講演会等を通して、直接対話する機会を設ける。	A	A	・系列・科目ガイダンスを充実させるとともに二者面談・三者面談により、多くの生徒が納得した選択を行うことができた。キャンパス見学・インターンシップや外部講師による進路講話も実施でき、自身の進路について考える機会をもつことがことができた。外部との連携をより高めていく。
		②　学校の諸活動に意欲的に取り組んでいると感じている生徒が75%以上である。	・今年度開催予定の文化祭や球技大会等を通して、学校への帰属意識が高められるようにする。生徒会本部役員との連携を密にしてより充実した行事内容とする。	A	A	・文化祭、学習成果発表など、生徒が主体的に関われるよう、特別活動部、進路指導部と連携を図る。また、感染症対策を万全にし、できる限り一般公開での開催とする。	A	A	・新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、部活動や学校行事等を開催することができた。引き続き、感染諸対策を徹底して行事を開催していく。
	２　生徒の主体的な学びを引き出す「総合的な探究の時間」（総合研究）を行っていますか。	③　一連の学習活動（課題設定、調査・研究、まとめ、発表等）を主体的な学びであると自己評価している生徒が80%以上である。	・キャリア教育指導用ワークシートを刷新し、生徒自らで設定した課題解決に向けたテーマに沿った「研究」が３年間を通してできるよう、導入時からの指導の充実を図る。 ・相互に研究成果を発表させることですべての生徒に刺激を与え、主体的な学びに対する意欲を喚起する。	A	A	・２・３年次、総合研究ガイダンスの充実や、課題解決のための研究の具体例を示し、生徒が主体的に学習を行えるよう支援する。	A	A	・生徒の自主的な活動を重視し、主体的な学習が継続できるように支援していく。２・３年次の総合研究ガイダンスの充実を図るとともに、総合研究発表会を通して１・２年生に次年度の自己探究セミナー・総合研究への目標を持たせる。
Ⅱ　生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	３　基礎・基本の定着を図る指導が充実していますか。	④　学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が85%以上である。	・１年次に基礎、基本を重視した授業を行い、学び直しができるようにする。 ・ＩＣＴ機器を効果的に活用し、よりわかりやすい授業展開を目指す。	B	B	・引き続きＩＣＴの活用を推進する。 ・新型コロナウイルス感染症やインフルエンザによる出席停止生徒へのオンラインでの対応を検討する。	C	C	・２学期はコロナウイルス感染症の感染者が増加し、学習指導が断続的になってしまった時期がある。オンライン授業の体制を確立していく。
		⑤　目標の資格取得を果たした生徒が60%以上である。	・資格取得の必要性を丁寧に説明することで各種検定の受検を促す。 ・受検希望者に対して計画的に指導することでより多くの受検者が合格できるようにする。	A	B	・進路指導部と連携し、「進路だより」などを通じ、資格取得の重要性を引き続き訴える。	B	A	・商業関係の資格にチャレンジする生徒が多くみられた。普通教科の学習意欲を高めるため、漢字検定や英語検定等にも挑戦させたい。
Ⅲ　生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	４　組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑥　職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に１～２回程度行っている。	・学年、分掌、校務運営委員会等で定期的に生徒の情報交換を行い、職員会議等の場を通じて全職員の共通理解を図る。	A	－	・学年会議、職員会議などの定期的な会議以外にも生徒の情報共有を行い、早期発見、早期対応に努める。	A	－	・引き続き、各会議で情報交換、情報共有を行うと共に、教育相談係やスクールカウンセラーと連携して、支援が必要な生徒に対応していきたい。
		⑦　部活動等への加入率が70%以上である。	・生徒主体の企画運営を尊重する環境作りに努め、生徒会活動や部活動の振興のための環境整備をする。	B	B	・部活動の活性化により、前向きな生徒を増やし、学校の明るい雰囲気づくりに繋げたい。	B	C	・新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、限られた時間で工夫をして活動をしていきたい。
	５　生徒は規則正しい学校生活を送っていますか。	⑧　基本的生活習慣を身に付け、服装頭髪など身だしなみがしっかりしている生徒が90%以上である。	・挨拶を活発に交わらせる校内の雰囲気を醸成し、挨拶や身だしなみについて生徒の意識を向上させるように、全職員が共通理解のもと指導する。	B	A	・頭髪・服装指導は学年団を中心に徹底指導する。また、挨拶・身だしなみ・遅刻指導を中心に毎朝玄関指導を実施し、改善が必要な生徒にはその場で指導する。	C	A	・本校の指導を理解して、身だしなみがしっかりしている生徒がほとんどである。今後も生徒の実情や、社会の常識、時代の進展などを踏まえた指導を行いたい。
		⑨　家庭と連携を図ることで、生徒の遅刻者数は、１日平均１％以内である。	・朝読書（学習）の充実、各学年による遅刻者指導を徹底すること、時間を守ることの大切さを指導することで、遅刻者数を減少させる。	A	A	・現時点では、登校時に遅刻をする生徒は少ない状況である。家庭との連携を密にし、基本的生活習慣の確立を図ることで欠席、遅刻、早退を減少させたい。	C	A	・生活習慣の乱れや不登校傾向のある生徒に対しては、早期の組織的対応、保護者との連携を強化して、改善に努めたい。
		⑩　いじめの未然防止や早期発見に努めて、いじめの解消率が90%以上である。	・いじめ問題については、法に基づいて組織的に対応をする。早期発見、早期報告、早期対応を徹底して、いじめの根絶を図りたい。	A	C	・いじめの早期発見のため、クラスでの面談をはじめ、学校生活アンケートを実施、教育相談係との連携、いじめ問題対策委員会により職員研修で対応の仕方を徹底したい。	A	C	・短時間であったが、教職員への研修を重ねたことで、組織的な対応への意識が高まった。今後も、定期的に教職員への研修を行っていきたい。
Ⅳ　生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	６　計画的な指導を行っていますか。	⑪　「自己の生き方」と「将来の職業」との関連を幅広く考えさせる活動を実施し、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	・各行事やテストを実施後、振り返りの時間を定着させ、自己に対する理解と課題を発見させ、成長を促す。 ・総合的な探究の時間とLHRを効率的に組合せ、３年間を見通した一貫性のあるキャリア教育を実施する。その際に「高校卒業時の進路」を「その後の自己の生き方」につなげるための考察の機会を各学年に必ず設ける。	A	A	・学校行事だけでなく、定期テストの振り返り時間を設定し、学校生活への取り組みについて考える機会を設け、自分の良さや努力すべき点に気づかせ、進路に向けた個々の課題を克服するための行動計画を立案するためのきっかけとさせる。	B	B	・学校行事・定期試験・実力テストの３年間を振り返ることができる「キャリア・パスポート」への記録をしているが、「キャリア・パスポート」と３年生の「進路ノート」や１・２年生の「進路の手引」の併用をすることで、生徒が進路について考える時間を充実させる。
		⑫　生徒の将来の志望について理解している保護者が80%以上である。	・進路希望調査について、２学年の第３回と３学年は家庭に持ち帰り、保護者と相談した上で提出させる。また、各学年での三者面談で、進路希望について必ず確認する。	A	A	・進路希望調査を家庭に持ち帰り、保護者の確認の上提出させることで、家庭で進路について話し合う機会とする。 ・「進路ノート」や「進路の手引」も進路行事やLHRで活用できるよう各学年に働きかける。	A	A	・生徒の進路志望について、生徒・保護者・職員が情報を共有し、保護者・教職員間の共通理解をより計るため、「進路だより」による情報発信をしていく。
	７　適切な進路情報を提供していますか。	⑬　「進路だより」を定期的（年間１２回）に発行している。	・「進路だより」を毎月発行し、本校卒業生の進路状況や学習状況、入試の動向や求人状況など、進路関連情報をまとめて提供する。 ・発行の際は一斉メールで保護者に連絡し、生徒の進路希望別に随時集会を設け、情報の提供を行う。	B	B	・「進路だより」を定期的に発行し、本校生徒の進路希望や進路状況をはじめとして、本校の求人の状況など生きた情報を随時提供していく。	C	C	・今後も継続して「進路だより」を発行していくために、教職員の役割分担を明確にして、生徒の進路状況を把握することや最新の進路情報を収集し生徒に情報還元できる環境を作る。そのためには、より幅広い発信ができるような体制づくりを再構築していく必要がある。
Ⅴ　日常的な相談活動が充実していますか。	８　組織的・継続的指導を行っていますか。	⑭　定例会議を月１回以上開催する。	・悩み等を抱えている生徒の職員間の情報共有とそれに伴う迅速な初動対応ができるように、解決に向けてチームで協働する。特に、学年会議での生徒情報を定期的（会議形式、回覧形式）に係で共有する。	A	－	・教育相談関係の問題については、解決に向けてチームで協働することができた。定期的な会議が実施できない場合は、回覧形式で情報共有を行い対応した。今後は、時間を固定し、係会議を実施したい。	A	－	・教育相談関係の問題については、解決に向けてチームで協働することができた。定期的な会議が実施できない場合は、回覧形式で情報共有を行い対応した。定例会議は、文書による情報共有も含めると月に１回以上は実施できた。
		⑮　教育相談通信・スクールカウンセラー通信を月に１回発行する。	・生徒や保護者のニーズにあった内容のＳＣ通信並びに教育相談通信を発行する。また、また、係職員が輪番制で作成することにより、内容の幅を広げ、効果的な情報発信を行う。	A	C	・通信は定期発行できた。今後は、係職員が輪番制で作成することにより、内容の幅を広げ、効果的な情報発信を行いたい。SNSの活用により保護者への情報提供を行う。	A	C	・通信は定期発行できた。各月毎に生徒が安心する紙面作りを心がけた。また、通信の発行日にはオクレンジャーで周知したりHPにも掲載することで、保護者の方も確認しやすくなり、今後も効果的な情報発信を心がけたい。
		⑯　転退学者数を前年度より減少させる。	・早めの情報集約と適切な相談業務に当たる。特に、生徒情報カードの円滑な活用を促し、情報共有を図り、必要な場合は外部機関との連携を図る。また、学校生活アンケートやGライフログの活用により気になる生徒の早期発見に役立てる。	C	B	・学校生活アンケートやGライフログの活用により気になる生徒の早期発見に役立てることできた。今後は、アンケートやGライフログ以外に、生徒情報カードの活用を促進し、情報集約と適切な相談業務を行いたい。	B	C	・学校生活アンケートやＧライフログの活用により気になる生徒の早期発見に役立てることでき、12月末時点で転退学者数は減少となった。昨年度見直しを図った生徒情報カードについては、効果的な情報集約が難しいため、次年度に向けて見直しを検討したい。
Ⅵ　開かれた学校づくりに努めていますか。	９　家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑰　学校の教育活動を地域及び関係機関の方々に理解してもらうために「学校公開」を年３回実施している。	・教務部と情報管理部の連携を密にし、Ｗｅｂページ等速やかに行い、学校の教育活動を積極的に発信する。 ・体験学習会、学校説明会、学習成果発表会など開催日程を工夫するなどして、可能な限り公開して実施する。	A	－	・Ｗｅｂページの更新を速やかに行い、最新情報を発信していく。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に最大限配慮しながら、一般公開できるよう、開催方法を工夫する。	A	－	・Ｗｅｂページをより見やすいデザインに変更し、さまざまな情報を提供していく。 ・新型コロナウイルス感染症への対策を徹底しながら、行事を公開で実施することができた。
		⑱　ＰＴＡ総会、学年保護者会等に積極的に参加している保護者が60%以上である。	・ＰＴＡ総会、ＰＴＡ諸会議、マナーアップ運動、ＰＴＡ研修会などのＰＴＡ活動をより参加しやすいよう改善を図り、各学校行事に家庭や地域社会が積極的に関われるよう、魅力的な内容となるよう改善を進める。 ・ＰＴＡ新聞通じて本校の諸活動や生徒の様子を広く家庭や地域に伝える。また、Ｗｅｂページやオクレンジャーを効果的に活用し、広報活動や連絡を徹底する。	A	B	・ＰＴＡの行事にも色々制約があるが、ＰＴＡ研修会、２・３学年保護者会。マナーアップ運動２回とＰＴＡ新聞の発行は、ＰＴＡ役員やＰＴＡ会員の協力により無事実施することができた。また、オクレンジャーの活用、アンケート等のＧｏｏｇｌｅｆｏｒｍｓの活用やＷｅｂページ等による生徒の活動の広報を通して、学校への協力や理解が得られるよう努めていきたい。	A	B	・ＰＴＡの諸行事も少しずつではあるが、以前の状況に戻りつつある。それでも突然の変更等に臨機応変に対応しなければならないことがあった。ＰＴＡ研修会、学年保護者会。規模を縮小したマナーアップ運動３回とＰＴＡ新聞の発行は、ＰＴＡ役員の協力を得て実施することができた。引き続きＷｅｂページやオクレンジャー等ＩＴを活用し、生徒の活動を広報するとともに、協力や理解が得られるよう努める。
	10　家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	⑲　保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年３回以上実施している。	・各系列の学習内容や生徒の興味、関心に合わせてテーマを選び、講演会を実施する。	A	－	・昨年度、一昨年度実施できなかった卒業生講話や記念講演会について、オンライン等の利用も加味し実施に向け努める。	A	－	・昨年度実施できなかった卒業生講話や記念講演会を今年度は行うことができた。オンライン等にも対応できるようにしながら、以前の形でできるだけ実施できるよう努めたい。
Ⅶ　教育デジタル化に努めていますか。	11　ＩＣＴを活用した指導を行っていますか。	⑳　ＩＣＴを活用した授業に満足している生徒が75%以上である。	・各教科担当が実践しているＩＣＴの活用を共有し、より効果的な活用方法を探究する研修会を実施する。	A	A	・ＩＣＴを活用した授業の工夫について、そのノウハウを共有し、授業の質の向上を図る。	A	A	・ＩＣＴを効果的に活用する場面を精選し、分かりやすい授業を目指す。また、オンライン授業の体制を整える。
	12　ＩＣＴを活用した業務改善を行っていますか。	㉑　オンラインによるアンケートを３回以上実施している。	・学校評価アンケート、授業アンケート、学校行事の振り返り等、可能な限りオンラインへの切り替えを行う。	A	A	・各種アンケートや体験学習会の申し込みなどGoogleフォームの活用が進んだ。引き続き、ＩＣＴを利用した業務改善に努める。	A	A	・各種アンケートや体験学習会の申し込みなどGoogleフォームを効果的に活用できた。ＩＣＴを利用した業務改善を継続する。